

## 出エジプト記 20:22-26; 25:1-31:11; 35:4-40:38 神聖な場所

みなさんは、聖書の主題が何であるかを考えたことがありますか？私は最近、福音連盟（The Gospel Coalition）に関わる長老派の牧師、ケヴィン・デヨング（Kevin DeYoung）の言葉を引用した Facebook の投稿を見て、その投稿がとても心に残りました。彼はこう言っています。聖書全体を貫く物語は、聖なる神がいかにして聖くない民と共に住むことができるかということに焦点を当てているのです。そして出エジプト記の中でも、まさに神がそれを可能にしようとされる姿を見ることができます。思い出してください。私たちはこれまで十戒を読み進め、その後さらに安息日や聖なる時間、他者への接し方に関する掟を学んできましたが、それらすべてが指し示しているのは、私たちがどれほど罪深い存在であり、そして神がどれほど聖く正しいお方であるかということです。言い換えれば、それらの掟は私たちがなぜ神の御前に出ることができないのかを明らかにしています。だからこそ、神ご自身が、御自分が民と共におられる道を備えなければならなかったのです。実際、出エジプト記の 4 分の 1、つまり 10 章分が、そのために神がどのように道を備えられるかということに費やされています。その方法とは、幕屋（タバナクル）を建て、そこで仕える祭司たちを任命することでした。そうして民は神のもとに近づき、どこへ行っても神の臨在を経験することができるようになったのです。もちろん、この 10 章すべてを今日読むことはできませんが、まだお読みでない方は、ぜひご自分でこれらの箇所すべてを読んでみることをお勧めします。

この箇所を読み進めていくにあたって、私たちは三つの問いについて考えていきたいと思います。それは、「神は彼らに何を作るように命じたのか」「神はどのようにそれを作るように命じたのか」、そして「なぜ神はそれを作るように命じたのか」という三つの問いです。最初の問いはこうです——イスラエルの民は、出エジプト記の多くの部分を割いてまで、一体何を作るように命じられたのでしょうか。その答えは簡潔です。**神は、ご自身を礼拝するための場所、そして神の実際の臨在を宿す場所を彼らの宿営の中に作るよう命じられたのです。**出エジプト記 25 章 1 節は次のように始まります。**主はモーセに告げられた。8 節に移ると、8 彼らにわたしのための聖所を造らせよ。そうすれば、わたしは彼らのただ中に住む。9 幕屋と幕屋のすべての備品は、わたしがあなたに示す型と全く同じように造らなければならない。**彼らが作るように命じられたのは、基本的には、礼拝のために特別に設けられた大きな天幕と、その天幕を囲む壁でした。すべての寸法を読むことはしませんが、出エジプト記には全体がおよそ長さ 46 メートル、幅 23 メートルの構造物として描かれ、幕屋そのものは長さ 13.7 メートル、幅 4.6 メートルほどであったと記されています。画面に映っている絵のように、全体は布で取り囲まれ、その内側に本体である幕屋の天幕が建てられたと考えられています。比較のために言うと、FIFA 標準のサッカーグラウンドは 105 メートル×68 メートルですから、幕屋の全体面積はそのおよそ半分ほどの広さになります。そして、私たちが今座っているこの礼拝堂はおよそ長さ 17 メートル、幅 12 メートルですので、幕屋の天幕そのものはこの礼拝堂の幅の 3 分の 1 ほどで、長さは 4 メートルほど短いという計算になります。つまり、巨大というわけではありませんが、移動のたびに設営し直すことができる天幕であったことを考えると、かなりの大きさでした。

しかし、彼らが作るよう命じられたのは天幕だけではありませんでした。神はその天幕の中や中庭に置くための家具を作るようにも命じられたのです。その中心となる家具が契約の箱です。出エジプト記 25 章 10 節にはこう書かれています。**10 アカシヤ材の箱を作り、その長さを二キュビト半、幅を一キュビト半、高さを一キュビト半とする。**この箱、すなわち契約の箱が重要であったのは、そこに神の律法、すなわちイスラエルとの契約が刻まれた石の板が納められたからです。出エジプト記 25 章 21 節にはこう書かれています。**21 その『宥めの蓋』を箱の上に載せる。箱の中には、わたしが与えるさとしの板を納める。**「宥めの蓋（英語では「あがないの座」）」は、契約の箱の上にかぶせられる蓋であり、その両端からは二体の大きな天使が彫られていました。「さとしの板」とは、十戒が刻まれた石の板のことです。おそらく、それは画面に映っている絵のような姿をしていたのでしょう。また、同じく机も作られました。出エジプト記 25 章 23 節にはこう書かれています。**23 また、アカシヤ材で机を作り、その長さを二キュビト、幅を一キュビト、高さを一キュビト半とする。**そして 30 節には、**30 机の上には臨在のパンを置き、絶えずわたしの前にあるようにする。**と書かれています。この机には、12 の支族に対する神の備えを象徴する 12 個のパンが置かれました。それは、イスラエルの民が神の民として神の備えの中に生かされていることを思い起こさせるものでした。見た目はおそらくこのようなものであったでしょう。31 節にはこう書かれています。**31 また、純金の燭台を作る。**そして、この絵のような七つ枝の燭台が作られました。出エジプト記 30 章 18 節にはこう書かれています。**18 「洗いのために洗盤**

とその台を青銅で作し、それを会見の天幕と祭壇の間に置き、その中に水を入れよ。これは儀式的な清めのために用いられるもので、おそらくこのような形をしていたと考えられます。また、出エジプト記 27 章 1 節では祭壇を作るようにも命じられています。1 祭壇をアカシヤ材で作る。その祭壇は長さ五キュビト、幅五キュビトの正方形とし、高さは三キュビトとする。これはおそらく画面に映っているような形をしており、年間を通して罪のためのいけにえをささげるために用いられました。さらに、もう一つ別の祭壇が作られました。それが香をたくための香の祭壇であり、出エジプト記 30 章 7 節によると、そこでは毎日香がたかれました。7 アロンはその上で香りの高い香をたく。朝ごとにとしびを整え、煙を立ち上らせる。しかし、この香の祭壇にも年に一度だけ、いけにえの血が塗られることになっていました。出エジプト記 30 章 10 節にはこう書かれています。10 アロンは年に一度、その角の上で宥めを行う。その祭壇のために、罪のきよめのささげ物の、宥めのための血によって、彼は代々にわたり、年に一度、宥めを行う。これは主にとって最も聖なるものである。」

「それは主にとって最も聖なるものである」という言葉は、この幕屋のすべての部分を表していました。実際のところ、イスラエルの民のほとんどは、これらの器具の大半を見ることは一生ありませんでした。これが、幕屋が完成し組み立てられたときの配置図です。ご覧のとおり、幕屋の本体部分は『聖所』と『至聖所』に分けられていました。出エジプト記 26 章には、美しい垂れ幕が作られたことが記されており、33 節にはこう書かれています。33 その垂れ幕を留め金の下に掛け、垂れ幕の内側に、あかしの箱を運び入れる。その垂れ幕は、あなたがたのために聖所と至聖所との仕切りとなる。大祭司だけが年に一度だけ至聖所に入ることを許されていました。そしてその場所、すなわち契約の箱の上において、神はご自身の臨在が宿ると告げられたのです。出エジプト記 25 章 22 節にはこう書かれています。22 わたしはそこであなたと会見し、イスラエルの子らに向けてあなたに与える命令を、その『宥めの蓋』の上から、あかしの箱の上の二つのケルビムの間から、ことごとくあなたに語る。聖所でさえも、そこに入ることができたのは祭司たちだけであり、しかも幕屋のその部分に入れるのは、決められた務めを果たすときに限られていました。

ここで、神が民に作るよう命じられた二つ目のものに移ります——それは祭司たちのための衣服です。画面には、その衣服の各部分を示しています。出エジプト記 28 章には、これらの衣服がどのようなものであったかが詳しく説明されています。まず最初に登場するのはエポデと呼ばれるもので、上着と長衣、そして下着の上に身に着ける一種の前掛けのようなものでした。その肩の部分には、左右に一つずつ特別な宝石が取り付けられており、そこにはイスラエルの十二の支族となったヤコブの十二人の息子たちの名が刻まれていました。出エジプト記 28 章 12 節にはこう書かれています。12 その二つの石をエポデの肩当てに付け、イスラエルの息子たちが覚えられるための石とする。アロンは主の前で、彼らの名が覚えられるように両肩に載せる。同じ考え方は次の部分で出てくる胸当てにも見られます。そこにはイスラエルの十二の支族を表す十二個の宝石がはめ込まれていました。出エジプト記 28 章 29 節にはこう書かれています。29 このようにして、アロンが聖所に入るときには、さばきの胸当てにあるイスラエルの息子たちの名をその胸に担う。それらの名が、絶えず主の前で覚えられるようにするためである。アロンは絶えず主の前に、イスラエルの息子たちのさばきを胸に担う。しかし胸当てには、別な重要な意味が込められていました。30 さばきの胸当てにはウリムとトンミムを入れ、アロンが主の前に出るときに、それがアロンの胸の上にあるようにする。ウリムとトンミムは特別な石であり、大祭司がある事柄について神の御心、すなわちここに書かれている「裁き」を知るために用いるものでした。また、大祭司はエポデの下に青い上着を身につけており、その裾には鈴が取り付けられていました。出エジプト記 28 章 35 節には、その理由が記されています。35 アロンはこれを、務めを行うために着る。彼が聖所に入って主の前に出るとき、またそこを去るとき、その音が聞こえるようにする。彼が死ぬことのないようにするためである。大祭司が至聖所に入ることを許されたのは、年に一度だけでした。その前には、香の祭壇の上で年ごとの血のいけにえをささげなければなりません。それは極めて重大な務めであり、もし自分自身の罪をまず告白せずに至聖所に入ったなら、神の臨在の中で命を落とすことになることになっていました。鈴の音が聞こえることで、他の祭司たちは大祭司がまだ生きており、イスラエルの民のために定められたいけにえをささげていることを知ることができました。大祭司の装いの仕上げには、「主に聖なるもの」と刻まれた金の板をつけた帽子（ターバン）がありました（28 章 36 節）。最後に、大祭司を含むすべての祭司には白い上着が与えられ、その上に帯を締め、さらに一般の祭司には頭巾が与えられました。また、彼ら全員に下着も用意されていました。出エジプト記 28 章 42 節にはこう書かれています。42 彼らのために、裸をおおう亜麻布のももひき

を作れ。それは腰からももまで届くようにする。祭司の衣服、特に大祭司の装いのすべては、神に近づくには聖さをもって臨まなければならないということを示していました。

そしてある意味では、二つ目の問い——神はどのようにそれを作るように命じられたのか——の中にも、神の聖さが現れています。しかし、さらに注目すべきなのは、この問いへの答えの中に、用いられた物や材料を通して神の栄光が現れているのを見ることができるという点です。神はこの礼拝のための天幕やその中の器具を、何でもよい材料や方法で作らせたわけではありません。これらの章を読むと分かるように、神は幕屋のあらゆる部分、また祭司の衣服のすべてについて、細かく具体的な指示を与えられています。金、銀、赤や青の布、海牛の皮、アカシアの木、染めた雄羊の皮など——いずれも当時の文化において非常に高価で美しいものを用いるよう命じられました。また、幕も同様です。至聖所の前にかけられた幕はもちろんのこと、一般の人々が見ることのできた聖所の幕ですら、青、紫、緋色の糸で美しく織り上げられていました。さらに神は、高価な香料を用いて特別な香を作るよう命じ、その配合で作られた香を礼拝以外の場では使ってはならないと定められました。神は、ご自身を礼拝し、人々を神へと向かわせるために用いられるものすべてが、神の栄光と威光を指し示すものであることを望まれたのです。モーセは出エジプト記 15 章の歌の中で、この神を「聖であって輝く方」と歌っています。11 主よ、神々のうちに、だれかあなたのような方がいるでしょうか。だれがあなたのように、聖であって輝き、たたえられつつ恐れられ、奇しいわざを行う方がいるでしょうか。

しかし、神が幕屋をどのように作るよう命じられたかという点には、もう二つ重要な特徴があります。第一に、材料やそのための費用は、民が心から進んでささげた献げものによってまかなわれたということです。出エジプト記 25 章 1 節から 2 節には次のように述べられています。主はモーセに告げられた。2 「わたしに奉納物を携えて来るように、イスラエルの子らに告げよ。あなたがたは、すべて、進んで献げる心のある人から、わたしへの奉納物を受け取らなければならない。物質的な献げものに加えて、人々はこれらすべてを作るための自分の技術や才能をささげるようにも勧められていました。つまり、ささげる方法はいくつもあったのです。後にレビ記に出てくる十分の一のささげもの（什一献金）は、実際には祭司の生活を支えたり、祭りを行うために用いられる、いわば税のようなものでした。しかし、この幕屋を建て、神を礼拝するためのささげものについては、すべてが自発的なものでした。そして人々は惜しみなく、次々とささげていったのです。実際、出エジプト記 36 章 5 節では、職人たちがモーセにこう言っています。「民は何度も持って来ます。主がせよと命じられた仕事のためには、あり余るほどのことです。」そして 6 節に移って、モーセは「男も女も、聖所の奉納物のためにこれ以上の仕事を行わないように。」と答えています。もし私たちが、「もう十分なお金がありますから、長期会堂建設への献金へのささげものはもうやめてください！」とお願いしなければならないとしたら、そんな状況をみなさんは想像できますか。神はご自身のための場所を建てるにあたって、どんな方法でも選ぶことができました。しかし、神はあえて民の自発的な献げものを通してその働きを進められたのです。そして、もし神が私たちにこの教会の施設を新しく整えることを許してくださるなら、それも最終的には、ここでこれから神の栄光が現されることを願う民の、自発的なささげものによってなされるのです。最後に、神はその働きを行うために、特別に選ばれた人々を用いられました。出エジプト記 31 章 2～3 節にはこう書かれています。見よ。わたしは、・・・ベツアルエルを名指して召し、3 彼に、知恵と英知と知識とあらゆる務めにおいて、神の霊を満たした。さらに 6 節には、見よ。・・・オホリアブを彼とともにいるようにする。と述べられています。これらの人々は、実際には多くの熟練したボランティアたちをまとめ、それぞれの作業を完成させるために必要なあらゆる働きを監督していました。しかし、彼らの指導の要（かなめ）となっていたもの、そしてすべての働きの土台になっていたものは、出エジプト記 39 章 43 節に示されています。43 モーセがすべての仕事を見ると、彼らは、見よ、主が命じられたとおりに行っていた。そこでモーセは彼らを祝福した。

このようにして民は、神の設計に従い、神の方法で幕屋を作り上げました。それは、神の聖なる栄光を現すためであり、神が選ばれた熟練した指導者のもとで、民が自発的にささげものをするによってなされたのです。では、なぜ神はこのようなことをされたのでしょうか。ここで、最初にお話したテーマに戻ります。すなわち、聖なる神がご自身の民と共に住まおうとされたからです。しかし、その民は聖くは、ありませんでした。したがって、少なくとも神の栄光と聖さを象徴する場所が必要だったのです。その場所には、特定の条件と服装のもとで、まず自らの聖さと民の聖さのためにいけにえをささげてから、民に代わって神の前に立ち、執り成し、語ることで人々―祭司―が必要だったのです。これが、民が神に近づくことのできる唯一の方法でした。そして実際に幕屋が完成し、祭司たちが神の命じられたとおりに一週間にわたる一連のいけにえをもって

身を整え聖別されたとき、神の臨在と栄光がその場所を満たしました。出エジプト記 40 章 34～35 節にはこう書かれています。そのとき、雲が会見の天幕をおおい、主の栄光が幕屋に満ちた。35 モーセは会見の天幕に入ることができなかった。雲がその上にとどまり、主の栄光が幕屋に満ちていたからである。

しかし、神の栄光がこの地上の幕屋を満たしたとはいえ、それはあくまで一時的なものでした。やがて幕屋は神殿へと取って代わられますが、その神殿も今はもう存在していません。契約の箱も、おそらく紀元 70 年に神殿が滅ぼされるよりもずっと前に失われていたと考えられています。では、なぜ神はこのような一時的な建物を造られたのでしょうか。それは、神がご自身の民と共に住まわれるために、やがて造られるより優れた住まいを示すためでした。そしてその新しい住まいもまた、幕屋と同じように、聖さのために血のいけにえを必要としたのです。エペソ人への手紙 2 章 13 節にはこう書かれています。13 しかし、かつては遠く離れていたあなたがたも、今ではキリスト・イエスにあって、キリストの血によって近い者となりました。神は今も私たちと共におられ、私たちはイエス・キリストを通して神に近づくことができます。そして、神がご自身の民と共に住まわれるために建てておられる構造物——それこそが教会であり、建物としてたとえられています。エペソ人への手紙 2 章 19 節から始まる箇所にはこう書かれています。19 こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、聖徒たちと同じ国の民であり、神の家族なのです。20 使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられていて、キリスト・イエスご自身がその要の石です。21 このキリストにあって、建物の全体が組み合わされて成長し、主にある聖なる宮となります。22 あなたがたも、このキリストにあって、ともに築き上げられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。聖なる神がご自身の民と共に住まわれるためには、民の罪のためにいけにえをささげる聖なる祭司と、その務めを行う聖なる場所が必要でした。そうして初めて、民は神に近づくことができ、神も彼らと共におられることができたのです。ところが今、もし私たちがイエス・キリストを知っているなら、神は聖霊を通して、私たち一人ひとりの内に、そしてキリストのからだである教会を通して、永遠に共に住んでおられます。そしてこの地上の教会は、やがて訪れる究極の行き先—新しい天と新しい地、すなわちイエスが私たちと共に続べ治められる新しい創造—を指し示しているのです。しかし、今、私たちには新たな問いが残されています。もし私たちが神の幕屋であり、その存在が神の聖さを示すものであるなら、教会として、そして教会を形づくる一人ひとりのクリスチャンとして、私たちはどのように神の聖さを現しているのでしょうか。幕屋を見たすべての人が神の聖さを見たように、私たちはその聖さを映し出し、人々が救い主を必要としていることを指し示しているのでしょうか。そしてどうか覚えていてください。もし今日ここにいるみなさんの中でイエス・キリストをまだ知らない方がいらっしゃるのであれば、みなさんは自分の罪のゆえに神に逆らい、神の怒りのもとにあるため、神に近づくことはできないのです。神に近づく唯一の道は、罪を悔い改め、あなたの創造主である神との間に和解と平和をもたらすために、ご自身をいけにえとし、あなたの大祭司となられた主イエス・キリストを信頼することなのです。私たちは今日、この聖餐式を通して、幕屋とその中でささげられていたあらゆる動物のいけにえを不要にしたイエスの死を覚えます。もし、あなたがイエス・キリストを主、そして救い主として信じ、従順にバプテスマを受けているのであれば、この食事はあなたのためのものです。もし、まだイエス・キリストを信じていない方、あるいはまだバプテスマを受けていない方は、どうかこの食事には参加しないでください。ご両親の皆さんは、もしお子さんの心の準備がまだできていない場合は、この食事に参加させないことで、その大切さを教えてあげてください。これから祈りをささげた後、執事たちが礼拝堂の四隅からパンとぶどうジュースを配ります。私たちは共にこの聖餐の食事を食べます。それでは、お祈りします。

## Exodus 20:22-26; 25:1-31:11; 35:4-40:38 Holy Place

Have you ever considered what the main point of the Bible is? I saw a Facebook post quoting Kevin Deyoung, a Presbyterian pastor most associated with the Gospel Coalition that really stuck with me. He said that the Biblical narrative, the story of the Bible, is primarily concerned with how a holy God can dwell with an unholy people. And here in Exodus, we certainly see God's concern to make that possible. Remember, as we went through the 10 commandments and even unfolded them more with discussing the Sabbath and holy time and rules for how we treat others, that everything is pointing to how sinful we are and how holy and righteous God is. Essentially, they show us why we cannot come into the presence of God. So, God has to make a way for him to be with his people. So, one fourth, a full quarter of the book of Exodus – 10 chapters – are devoted to how God will make that possible. And it is through the building of the tabernacle and the calling of priests to serve in that holy place to let the people come to God and experience his presence wherever they go. Clearly with 10 chapters to cover, we are only going to be reading a very small number of these verses, but I would encourage you to read all these passages for yourself if you haven't already.

As we work our way through this passage, we want to ask three questions: What did God tell them to make, how did God tell them to make it, and why did God tell them to make it. The first question we should ask is **what are the people of Israel told to make** that takes up so much of the book of Exodus. And the short answer is that **God directed them to make a place to worship him and contain his actual presence in their camp**. Exodus 25:1 begins, **The Lord said to Moses...then verse 8 And let them make me a sanctuary, that I may dwell in their midst. 9 Exactly as I show you concerning the pattern of the tabernacle, and of all its furniture, so you shall make it**. Essentially, what they are told to make is a huge tent and wall around that tent set aside for the purpose of worship. We won't read every measurement, but Exodus describes a structure roughly 46 meters by 23 meters overall, and 13.7 meters by 4.6 meters for the tabernacle tent itself. It would have looked somewhat like the **picture on the screen where you can see the cloth fence marking off the entire area and then the actual tabernacle tent there inside the larger area**. Just for comparison, a FIFA standard professional football pitch or soccer field is 105 meters by 68 meters, so this would have been about half the size of that in total land. And our sanctuary we are sitting in is about 17 meters long and 12 meters wide, so the tabernacle tent itself would be about one-third as wide as here and about 4 meters shorter. So, it wasn't huge, but given that it was a tent that could be taken down moved and put up again, it was quite large.

But they weren't just building a tent, God instructed them to make furniture to go inside the tent or in the courtyard. The primary piece of furniture is the ark of the covenant. Exodus 25:10 says, **10 "They shall make an ark of acacia wood**. This ark, this box, was important because it would hold the stone tablets that God's law, his covenant with Israel was written on. Exodus 25:21 says, **21 And you shall put the mercy seat on the top of the ark, and in the ark you shall put the testimony that I shall give you**. The mercy seat is the top cover of the ark of the covenant that had two large carved angels coming off of it. And the testimony is the stone tablets that will have the 10 commandments on them. **It probably looked like the picture on the screen**. There was also a table. Exodus 25:23 says, <sup>23</sup> **"You shall make a table of acacia wood**. And then verse 30 says, <sup>30</sup> **And you shall set the bread of the Presence on the table before me regularly**. This table would contain 12 loaves of bread that would remind all 12 tribes of Israel of God's provision for them as a people. **It would have looked something like this**. Verse 31 tells us...<sup>31</sup> **"You shall make a lampstand of pure gold**. So, there was this seven branched lampstand that looked like this picture. Exodus 30:18 says, <sup>18</sup> **"You shall also make a basin of bronze, with its stand of bronze, for washing**. This was for washing for ritual purity and **would have looked something like this**. They were also to make an altar in Exodus 27:1, **27 "You shall make the altar of acacia wood, five cubits long and five cubits broad. The altar shall be square, and its height shall be three cubits**. **This altar pictured on the screen** was for regular sacrifices for sins that

would be made year round on it. But there was another altar made called the altar of incense on which they burned incense everyday according to Exodus 30:7, <sup>7</sup> And Aaron shall burn fragrant incense on it. Every morning when he dresses the lamps he shall burn it... But once per year, and only once, it too would have the blood of a sacrifice placed on it. Verse 10 of chapter 30 says, <sup>10</sup> Aaron shall make atonement on its horns once a year. With the blood of the sin offering of atonement he shall make atonement for it once in the year throughout your generations. It is most holy to the LORD.”

The phrase it is most holy to the Lord described every part of this tabernacle. In fact, nearly all of the people of Israel would never see most of these items. Here is a layout of the tabernacle, once it was completely built and assembled. As you can see the actual tabernacle part is divided into the holy place and the most holy place. Exodus 26 describes a beautiful veil or curtain being made, and then verse 33 says, <sup>33</sup> And you shall hang the veil from the clasps, and bring the ark of the testimony in there within the veil. And the veil shall separate for you the Holy Place from the Most Holy. Only the high priest, once per year could enter the most holy place, and it was in that place over the ark of the covenant that God says his presence would dwell. Exodus 25:22 says, <sup>2</sup> There I will meet with you, and from above the mercy seat, from between the two cherubim that are on the ark of the testimony, I will speak with you about all that I will give you in commandment for the people of Israel. Even the Holy Place was only for the priests and then it was to do specific activities in that portion of the tabernacle.

This leads to the second thing that God told the people to make- clothes for these priests. On the screen, I have these pieces of clothing highlighted for you. Exodus 28 walks us through what these clothes consisted of. First, there is the Ephod, which was a sort of apron worn over the robe, tunic, and undergarments. On the shoulders were two special stones one on each side with the names of the 12 sons of Jacob which became the tribes of Israel engraved on them. Verse 12 of Exodus 28 tells us, <sup>12</sup> And you shall set the two stones on the shoulder pieces of the ephod... And Aaron shall bear their names before the Lord on his two shoulders for remembrance. We see this same idea on the next part, the breastpiece, which had 12 gemstones representing the 12 tribes of Israel. Verse 29 reads, <sup>29</sup> So Aaron shall bear the names of the sons of Israel in the breastpiece of judgment on his heart, when he goes into the Holy Place, to bring them to regular remembrance before the Lord. But the breastpiece had something else significant. Verse 30 of chapter 28 says, And in the breastpiece of judgment you shall put the Urim and the Thummim, ...Thus Aaron shall bear the judgment of the people of Israel on his heart before the LORD regularly. The Urim and Thummim were special rocks that the High Priest could use to determine God's will, or as we read here, his “judgment” in a particular matter. Then there was a blue robe for the high priest that was worn under the ephod that had the odd attachment of bells. Verse 35 tells us why. <sup>35</sup> And it shall be on Aaron when he ministers, and its sound shall be heard when he goes into the Holy Place before the LORD, and when he comes out, so that he does not die. The high priest could enter the Most Holy Place only once a year. Before doing so, he had to offer the yearly sacrifice of blood on the altar of incense. This was such a serious duty that if he entered without first confessing his own sins, he would die in God's presence inside the Most Holy Place, also called the Holy of Holies. By hearing the bells, the other priests knew the high priest was still alive and offering the required sacrifice on behalf of the people of Israel. His appearance was topped off by a turban bearing a gold plate engraved “Holy to the Lord” (v. 36). Finally all the priests including the high priest were given white tunics, and a sash to act like a belt around it, and the regular priests received headbands. They were also all given undergarments. Verse 42 of chapter 28 says, <sup>42</sup> You shall make for them linen undergarments to cover their naked flesh. They shall reach from the hips to the thighs. Everything about the clothing of the priests, and High Priest especially, pointed to the need to approach God in holiness.

And to some extent, we see God's holiness in our second question of, how did God tell them to

make it? But even more so, in answering this question, we see God's glory revealed in the **objects and materials used**. God didn't just let them make this tent for worship or the objects in it out of anything or in anyway. Just read through these chapters- God lays out detailed instructions for every part of the tabernacle and the priests garments. We see God tell them to use gold, silver, red cloth, blue cloth, sea cows, acacia wood, dyed ram skins – all very expensive and beautiful in that cultural setting. And those curtains, especially the ones in front of the most holy place, but even the ones regular people could see going into the tabernacle holy place were beautifully woven of blue, purple and scarlet yarn. He had them make a specific incense with expensive ingredients and then tell them that they could not use that formula for incense anywhere else except in the temple worship. God wanted what was used to worship him and point people to him to be done in such a way that it pointed people to his glory and majesty. Moses describes this in his song in Exodus 15 as being "majestic in holiness." [Exodus 15:11](#) says, "Who is like you, O Lord, among the gods? Who is like you, majestic in holiness, awesome in glorious deeds, doing wonders?"

But there are two more significant details in how God tells them to build it. The first of those is that the material or money for the materials came from the FREEWILL offerings of the people. [Exodus 25:1-2](#) says, [25 The Lord said to Moses, 2 "Speak to the people of Israel, that they take for me a contribution. From every man whose heart moves him you shall receive the contribution for me.](#) In addition to material goods, people were encouraged to donate their skills at creating all these things as well, so there are many ways to give. The later tithe in Leviticus was actually more of a tax to pay the priests and do festivals. But when it came to worship and the building of this tabernacle for that worship, the gifts were voluntary. And they gave and gave some more! In fact in [Exodus 36:5](#), the craftsmen working said to Moses, "[The people bring much more than enough for doing the work that the Lord has commanded us to do.](#)" So then Moses tells the people, "[Let no man or woman do anything more for the contribution for the sanctuary...](#)" in [verse 6](#). Can you imagine if we had to ask you to stop giving to the long term facility fund because we have more than enough money in it?! God could have chosen any way to build this place for himself, but he chose to use the freewill gifts of his people. And if God is going to allow us to renew our facilities, it will ultimately be through the freewill offerings of his people who desire to see God continue to be glorified in this place. Finally, God used specific chosen people to do the work. [Exodus 31:2-3](#) says, [2 "See, I have called by name Bezalel ... 3 and I have filled him with the Spirit of God, with ability and intelligence, with knowledge and all craftsmanship...](#) and then [verse 6](#) says, [6 And behold, I have appointed with him Oholiab....](#) These men actually oversee a huge group of volunteers skilled at doing the various work necessary to complete the tasks. But the key to their leadership and to all the work done is seen in [Exodus 39:43, 43 And Moses saw all the work, and behold, they had done it; as the Lord had commanded, so had they done it. Then Moses blessed them.](#)

So, the people made the tabernacle, by God's plans, in God's way, to show the glory of his holiness, by giving free will offerings under the leadership of skilled people God had chosen to lead the work. But why did God do all this? This takes us back to our first idea that the holy God wanted to dwell with his people, but those people were not holy. So, there needed to be a place that at least would represent the glory and holiness of God. That place would need men, priests, who could come before God under specific circumstances and clothing with sacrifices made for their own holiness and the holiness of the people in order to intercede and talk with God on behalf of the people. This was the only way the people could come to God. And in fact, what happened was when the tabernacle was built and the priests were dressed and consecrated by a series of sacrifices that God had commanded over a period of a week, then we see God's presence, his glory, fill that place. [Exodus 40:34-35](#) says, [34 Then the cloud covered the tent of meeting, and the glory of the Lord filled the tabernacle. 35 And Moses was not able to enter the tent of meeting because the cloud settled on it, and the glory of the Lord filled the tabernacle.](#)

But while God's glory filled this earthly tabernacle it was temporary. One day it would be replaced by the temple that doesn't exist today either. The Ark of the Covenant was likely gone long before the temple was destroyed in 70 AD. So, why did God build this temporary structure? To picture for us the better structure he would build to dwell with his people! And like the tabernacle, that structure too would require blood sacrifice for holiness. In [Ephesians 2:13](#), we read, [13 But now in Christ Jesus you who once were far off have been brought near by the blood of Christ](#). God dwells with us, we can be near to God through Jesus Christ! And the structure that God is building to dwell with his people is the church described as a building. Verse 19 of Ephesians 2 says, [19 So then you are no longer strangers and aliens, but you are fellow citizens with the saints and members of the household of God, 20 built on the foundation of the apostles and prophets, Christ Jesus himself being the cornerstone, 21 in whom the whole structure, being joined together, grows into a holy temple in the Lord. 22 In him you also are being built together into a dwelling place for God by the Spirit](#). For a holy God to dwell with his people, it took a holy place served by holy priests to make sacrifices on behalf of the people for their sin, so they could approach God and he could be present with them. Now, if we know Jesus Christ, he dwells with us permanently through the Holy Spirit both personally in each Christian and corporately through the Body of Christ, as expressed in the local church. And the local church today points us to the ultimate destination of a new Heaven and a New earth where Jesus rules and reigns with us in a new creation. But for now, we are left with other questions. If we are his tabernacle, which demonstrated the holiness of God, how are we demonstrating the holiness of God as the church and as Christians who make up the church? Everyone who saw the tabernacle saw God's holiness – do we reflect that holiness and point people to their need for a Savior? And please know that if you do not know Jesus Christ in here today, that you cannot come near to God, because you are in rebellion to him in your sin and under his wrath. The only way to come near to God is to repent of your sin and trust in the Lord Jesus Christ who became your sacrifice and your High Priest to reconcile and bring peace between you and God, your creator. We remember that death today that did away with the need for the tabernacle and all the animal sacrifices offered in it, by the Lord's Supper. If you know Jesus Christ as your Lord and Savior, and have demonstrated your obedience to him by being baptized after salvation then this meal is for you today. If you are not a believer in Jesus or have not yet been baptized, then I would ask you to not participate. For parents, the best way to show your children the significance of this meal is to not let them participate when they are not ready. After I pray the Deacons will come and serve the bread and juice from the 4 corners of the sanctuary, and we will eat and drink the elements of communion together. Let's pray.